

2026年第1回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○鶴舞特別

鶴舞（つるまい）は、愛知県名古屋市中昭和区の地名。その由来は、かつてこの地が海辺で鶴が多く舞ったから、あるいは精進川上流にあたるこの地が水流間（つるま。水の流れる窪地の意）にあったからなど、諸説ある。110年以上の歴史を有する和洋折衷の大公園である鶴舞（つるま）公園は、県内有数の桜の名所としても有名。

○茶臼山高原特別

茶臼山高原（ちやうすやまこうげん）は、愛知県北東部の高原地帯。愛知県最高峰となる標高1,415mの茶臼山を中心に広がり、一帯は天竜奥三河国定公園に指定されている。萩太郎山の山頂付近には芝桜が群生しており、初夏に行われる「芝桜まつり」には、県内外から多くの観光客が訪れるほか、南アルプスも一望できる。

○中京スポーツ杯

中京スポーツは、東京スポーツ新聞社の中部支社から発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○伊良湖特別

伊良湖（いらご）は、愛知県田原市、渥美半島の先端に位置する町。伊良湖岬周辺は、1月上旬から3月下旬まで咲く菜の花の名所として有名。同岬と三重県鳥羽市の神島との境の海峡は、伊良湖水道と呼ばれ、古くは潮流が速く暗礁もあるため航海の難所として知られていた。なお、伊良湖に湖はなく、古来の地名「いらご」に「湖」の漢字を当てたものと言われている。

○昇竜ステークス

昇竜（しょうりゅう）は、空に昇っていく竜のこと。勢いがよいことの例えに用いられる。

○東海テレビ杯金鯨賞（GⅡ）

本競走は、1965年に創設された重賞競走。グレード制の導入後はGⅢで実施されていたが、1996年にGⅡに格上げされた。それに伴い、現行の芝2000mで実施されるようになった。創設以降、幾度かの実施時期の変更を経て、2017年からは再び春季に実施されている。

なお、第1着馬には同年の『大阪杯』への優先出走権が与えられる。

競走名は、名古屋城のシンボルである「金の鯨（しゃちほこ）」に由来する。

東海テレビは、愛知県名古屋市に本社を置く放送局。1958年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○岡崎特別

岡崎（おかざき）は、愛知県中南部の市。矢作川とその支流である乙川の流域に位置し、東海道の宿駅として発展した。徳川氏ゆかりの地で、名産である八丁味噌は、家康の出生地とされる岡崎城から西へ八丁（約870m）の集落で醸造されることからその名がつけられたといわれている。なお、岡崎市は本年市制110周年を迎える。

○豊明ステークス

豊明（とよあけ）は、愛知県中部の市。一説によるとその名は、酒造業を営んでいた伊藤家の屋号「豊倉屋」の「豊」と、当時の元号「明治」の「明」に由来しているといわれている。隣接する名古屋市緑区にかけて、桶狭間の古戦場跡があることで有名。

なお、同市は中京競馬場の所在地でもある。

○中日スポーツ賞ファルコンステークス（GⅢ）

本競走は、1987年に『中日スポーツ賞4歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。創設当初は芝1800mで実施されていたが、1996年に距離が1200mに短縮され、2001年に現在の名称となった。その後、重賞競走体系の見直しに伴い、2006年には実施時期が6月から3月へと移された。また、2012年には距離が1400mに延伸された。

ファルコン（Falcon）は、ハヤブサを意味する英語。

中日スポーツは、中日新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○フローラルウォーク賞

フローラルウォーク（花の遊歩道）は、名鉄名古屋本線中京競馬場前駅から中京競馬場までを結ぶ屋根付きの通路の愛称。上屋は四季折々の花で彩られている。2005年に名古屋競馬株式会社の施工により完成したもので、雨の日も濡れることなく駅と競馬場を往復することができる。

○弥富特別

弥富（やとみ）は、愛知県西部の市。名古屋市の西側20km圏内に位置し、鉄道、道路の利便性を背景に、市北部を中心に衛星都市として住宅開発が進んでいる。日本を代表する金魚のブランドである弥富金魚が有名。なお、弥富市は本年市制20周年を迎える。

○農林水産省賞典愛知杯（GⅢ）

本競走は、1963年に創設された重賞競走。1972年に父内国産馬限定競走、2004年から牝馬限定競走として実施されている。なお、2025年から実施時期が1月から3月に移設され、『京都牝馬ステークス』の実施距離である芝1400mを引き継ぐこととなった。

<第5日>

○ロイヤルバンコクスポーツクラブ賞

ロイヤルバンコクスポーツクラブは、1901年に創設されたタイの競馬統括団体。同団体は競馬のほかに多数のスポーツの統括を担っている。競馬については、1903年からロイヤルバンコクスポーツクラブ競馬場で実施されている。

○ターフオーソリティーオブインディア賞

ターフオーソリティーオブインディアはインドの6つのターフクラブ（ロイヤル・カルカッタ・ターフクラブ、ロイヤル・ウエスタン・インディア・ターフクラブ、マドラス・レースクラブ、バンガロール・ターフクラブ、ハイデラバード・レースクラブ、マイソール・レースクラブ）から構成されている団体。各クラブはそれぞれの地域における競馬を統括している。日本との交流は、1968年に種牡馬としてハクチカラ号を寄贈したことに始まり、第1回『ジャパンカップ』には同国からオウンオピニオン号が出走している。

○マレーシアカップ

マレーシアは、東南アジア、マレー半島南部とボルネオ島北部を占める連邦制の国。首都クアラルンプール。同国では、19世紀後半にシンガポールと一体で競馬が行われるようになった。その後、1886年に設立されたペラターフクラブと、1896年に設立されたセランゴールターフクラブの2つのターフクラブで現在も競馬が実施されている。

○フィリピントロフィー

フィリピンは、東南アジア、フィリピン諸島を占める共和国。首都マニラ。同国における競馬は、1867年にマニラジョッキークラブが結成されたことに始まる。

現在は、大統領府所管組織であるフィリピンレーシングコミッションの監督の下、2013年に設立されたメトロマニラターフクラブと2022年に設立されたフィリピンジョッキークラブの2つのターフクラブで競馬が実施されている。

<第6日>

○大寒桜賞

大寒桜（おおかんざくら）は、バラ科サクラ属の落葉高木。花は半開状で下を向いて咲く。競走名は、2012年の中京競馬場グランドオープンにあたり、中京馬主協会より3・4コーナーのコース外周沿いに大寒桜が寄贈されたことを記念して名付けられた。花言葉は「純潔」「精神美」。

○伊勢ステークス

伊勢（いせ）は、三重県中東部にある市。古くから「お伊勢参り」の参詣者が多く訪れた伊勢神宮の鳥居前町として発展してきた。伊勢神宮は天照大御神（あまてらすおおみかみ）を祭神とする内宮（ないくう）と、豊受大御神（とようけのおおみかみ）を祭神とする外宮（げくう）をはじめとする125の宮社で構成される。

○高松宮記念（G I）

本競走は、1967年に創設された『中京大賞典』を前身とする重賞競走。1971年に高松宮殿下から優勝杯を賜ったのを機に『高松宮杯』に改称された。以来、芝2000mの別定重量戦で実施されていたが、1996年に距離が1200mに短縮されるとともに、G IIからG Iに格上げされ、中京競馬場初のG I競走となった。また、1998年には競走名が『高松宮記念』に変更され、2000年には実施時期が5月から3月下旬へと移された。春の古馬短距離路線の頂点を決める競走であるとともに、春のG Iシリーズの始まりを告げる一戦となっている。

○鈴鹿特別

鈴鹿（すずか）は、三重県北部の市。古くは伊勢国府、国分寺が置かれた。西部には、日本初の国際レーシングコースである鈴鹿サーキットがあり、自動車レース最高峰のF1日本グランプリやオートレースの鈴鹿8時間耐久ロードレースなどが開催される。